



杉並社協のマスコット
キャラクター「うえるくん」

すぎなみ社協

No.144

広報紙「すぎなみ社協」は奇数月(5・7・9・11・1・3)10日発行です。
ホームページでもご覧になれます。http://www.sugisyakyo.com

杉並社協
感謝のつどい

シンポジウム を開催します

「東日本大震災から考える」

知っておこう、起こること・できること・すべきこと

災害時における市民活動

主な記事

- 2面 ● 東日本大震災・被災地支援
- 3面 ● 平成22年度決算報告
● 平成22年度事業報告
● 民生委員・児童委員コーナー
- 4面 ● ささえあう地域福祉の輪



南相馬市災害ボランティアセンタースタッフ

日頃から、杉並区社会福祉協議会をご支援いただき、ありがとうございます。

ご存じのとおり、先の東日本大震災は、被災地はもとより、我々にも強い衝撃と大いなる教訓を残しました。

震災でなにが起こっていたのか? 被災地に対してできることは? いざ被災者になった時になにをすべきなのか?

今回は、5〜6月に杉並社協が南相馬市災害ボランティアセンターに職員派遣したつながりから、南相馬市の関係者をお招きし、皆さんとともに、市民レベルでの災害支援活動を共に考えてまいります。

【開催日】 平成23年7月19日(火)

【開場】 午後5時30分 開演 午後6時(午後8時終了予定)

【会場】 センオン杉並ホール(杉並区梅里1-22-32)

【入場料】 無料

【申込み】 事前の申込みは不要です。直接会場にお越しください。(当日は満席になり次第、締め切りとさせていただきます。あらかじめご了承ください。)

【内容】 ①杉並区社会福祉協議会 平成22年度事業報告・平成23年度事業計画
②シンポジウム「東日本大震災から考える」

- ・震災直後の南相馬市
- ・南相馬市で取り組んだこと
- ・私たちがすべきこと

☆パネリスト…青木 圭太氏 南相馬市社会福祉協議会 地域福祉係長

西野 淳一氏 東田小学校おやじの会 O B

井口 順司氏 杉並区 危機管理室長

兵藤 正英 杉並区社会福祉協議会 地域福祉課長

【問合せ】 総務係 ☎03(5347)1010 FAX03(5347)2061

社協会長就任にあたって

杉並区社会福祉協議会 会長 小林 義明



このたび杉並区社会福祉協議会の会長に就任いたしました。いま、その職責の重さを受け止めているところでございます。

ご存じのとおり杉並社協は、区民の

皆さまと区と連携して地域福祉の向上に努めておりますが、各事業の一つひとつには民生委員児童委員、町会自治会や商店会連合会など、多くの方々のご支援ご協力をいただいております。この杉並社協をさらに充実発展させるために、微力ながら努力を重ねてまいりたいと思っております。

おりしもこの3月の東日本大震災によって、各地域の社協の存在がマスコミに取り上げられ、その役割の大きさがクローズアップされました。社協はいざその地域が被災すると、ほとんど同時に災害ボランティアセンターに早変わりします。行政と連携しながら、被災状況に応じて支援物資の調達やボランティアの募集等に駆け回ります。現に杉並区と災害時相互援助協定を結んでいる南相馬市においても、社協がボランティアセンターを立ち上げました。そこで杉並社協では、職員を災害ボランティアセンターの運営支援スタッフとして派遣いたしました。テレビや新聞などで接する東北の被害状況は、想像を超えるものがあり、とても他人事とは思えません。復興へは長くつらい道のりでしょうが、杉並社協としても、可能な限り支援してまいりたいと考えております。

さて杉並社協では、社協本来の日常の課題も山積しております。時代の流れを先導する社協、地域の絆を育む社協、より親しみ・頼りがいのある社協に変貌していかねばなりません。こうした流れを見据えながら、この3月に今後5カ年の実施計画を策定いたしました。今後はこの計画に沿って目標達成に向け努力し、基本目標である「安心をみんなでささえあうまち」づくりを、理事、評議員と職員とが一丸となって進めてまいりたいと思っております。

この10年間、杉並社協の会長としてご尽力いただきました高橋新一郎前会長に心から感謝申し上げますとともに、前会長同様に、皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。会長就任のごあいさつとさせていただきます。

東日本大震災・被災地支援



杉並区社会福祉協議会の4カ月の取り組みと今後

東日本大震災の発生から4カ月経過しました。いまだ被災地で、生活再建と地域復興のために活動している団体が数多くあります。被災地の真の復興には、まだまだ遠い状況ですが、3月11日の発災から6月にかけての杉並区社会福祉協議会（以下、杉並社協）の取り組みについて報告するとともに、災害時に活躍する「災害ボランティアセンター」についてお知らせします。

義援金の募集をしました

中央共同募金会の呼びかけに応え、3月14日から杉並社協の事務所が入っている、あんさんぶる荻窪1階と5階に募金箱を設置しました。また、区民による募金活動を支援するため、募金箱の貸し出しを行いました。

義援金215万9119円
貸出件数・12件（6月25日現在）

被災地への支援活動（情報提供）

物資提供やボランティアの受け入れ状況等をホームページや窓口にて情報提供しました。また、「空飛ぶ車いす」を通じて、車いす25台を被災地へ寄附しました。

被災者受入施設の支援

福島県南相馬市内の病院からの受け入れ

が決まった都立松沢病院の要請を受け、企業、個人ボランティアの協力を得て、衣類・くつ等の物資を提供しました。

南相馬市支援チャリティーバザー(2回)への協力

杉並区と協力して、実行委員会の事務局として企画協力やボランティア募集・受け入れ調整、物品の仕分け、当日のボランティアのコーディネート等を行いました。

被災地へ杉並社協職員を派遣

福島県南相馬市へ

杉並区と福島県南相馬市は災害時相互援助協定を締結しています。杉並社協として独自の支援を行うため、4月29日から6月30日まで南相馬市社会福祉協議会・原町区

災害ボランティアセンターへ、職員20名を派遣しました（1週間単位で1〜2名ずつ派遣）。

南相馬市は、小高区・原町区・鹿島区の三つの地域からなり、海と緑の豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域です。しかし今回の震災では、すべての区域が津波の被害に遭い広範囲にわたり家屋などが流されました。また、小高区と原町区の一部は東京電力福島第一原子力発電所（以下「原発」）から半径20km圏内のため、警戒区域に指定され全員退避命令が出ています。原町区は緊急時避難準備区域（原発から20km〜30km圏内）のため、原発の状況によっては、いつでも退避できる準備を行うこととされている区域です。

そういった環境の中で、復興を目指している南相馬市社協の原町区災害ボランティアセンターの運営支援のために協力することになりました。

現地へ行った職員から

発災から1カ月前、緊急時避難準備区域となり屋外活動ができるようになってきた4月末の状況です。津波・地震の被害を受けた地域では、津波で流



ボランティアに事前オリエンテーション

された流木、家具の一部など、総称して「ガレキ」と言われていますが、それらの撤去や自衛隊が回収した流出物の洗浄、避難所の支援、託児所の支援などが求められてい

ました。特にガレキ撤去は大人数のボランティアが必要な作業です。なんとか連休中に間に合わせようと現地でも大勢のボランティアに来てもらうため、受け入れ態勢などを整えているときでした。最大で400

人を超えるボランティアが来訪、うち県外のボランティアが8割を占めました。また、「初めてボランティアに来ました」という方でもニュースやホームページで情報を集め、長靴、防塵（ぼうじん）マスク、スコップなどを自前でそろえ、被災地に負担をかけないボランティアとしての心がけを多くの方から感じました。

現在は、仮設住宅に移ってからの支援のあり方や避難先から戻られる方への支援、両面を視野に入れた対応について、日々ミーティングを行い、災害ボランティアセンターで取り組んでいます。

被災地の皆さんから学んだこと

長期化する避難所にて

発災直後は家族の捜索や家の片づけに追われる方々に、炊き出しを行い、食事を提供するボランティア活動がとも必要とされていきました。しかし、時間の経過とともに、「家に戻りたくても家がない」、「仕事をしたくても職もない」、日常の当たり前

の生活ができない中では避難所の生活そのものを日々の暮らしとせざるを得ません。今回、長期化が予測された中で、過去の震災経験から運営を自ら行いはじめる避難所がありました。避難所内のエリアごとに責任者を置き、自治組織を作り、避難所の生活のルールを作りました。食事作りや掃除などもボランティアのペースで行うのではなく、自治組織のリードのもと活動をし

日頃のつながりこそ

す。被災地主体、大切なキーワードです。今回の震災では避難所を2度3度移らな



ければいけない、という事態も発生しました。体育館など広いスペースに入るときには「トイレが近い方がよい」「出入り口に近いのは寒くてイヤ」、一人ひとり当たり前の希望です。でもみんなの希望がかなうわけではありません。ある避難所では村単位で移動することで、希望の調整は村の中でやりとりし、大きな混乱もなく速やかに移動ができたとの話を伺いました。

今回の東日本大震災を機会に、「災害時に備える」ことが誰にとっても共通の関心事となり、刻々と伝わる情報から、非常持ち出し品など物資の備え以上に、地域住民の結びつきが重要であることを教えられました。日頃のつながりは、苦しい中でも助け合い、譲り合い、支えあう、震災を乗り越えるための大切なチカラです。杉並のまちに、大きな災害時にも活きる、顔の見えぬ地域のつながりを作ることが、緊急の課題です。

7月19日には、「東日本大震災から考える」と題してシンポジウムを開きます。皆さん、ぜひ一緒に考えませんか。

災害ボランティアセンターってなあに？

災害発生時に、被災者の生活を支援するボランティア活動を推進するための組織です。

混乱や困惑が続く被災地で、「いてもたってもいられない」思いで駆けつけたボランティアを、被災者のニーズや生活の再建のための支援活動につなげます。

東日本大震災の津波被害での建物内の泥のかきだし作業も、各地の災害ボランティアセンターが調整した大勢のボランティアが活躍しています。

杉並区にもあるの？

杉並区内で震度6弱以上の地震が発生したときや、その他、地域生活に支障を及ぼすような自然災害があったときなどには、杉並区社会福祉協議会が杉並区災害ボランティアセンターとなります。

“避難所の炊き出しの応援が必要”“壊れた家財の片づけを手伝ってほしい”など、被災した区民からの相談を受け、ボランティアを募集し、活動の紹介や調整を行います。

大きな災害が発生したときに備えて、平常時から杉並区と十分に協議を重ね、地域住民、ボランティア団体、消防署などの関係団体と連携し、発災時における迅速な体制づくりに努めています。 (平)

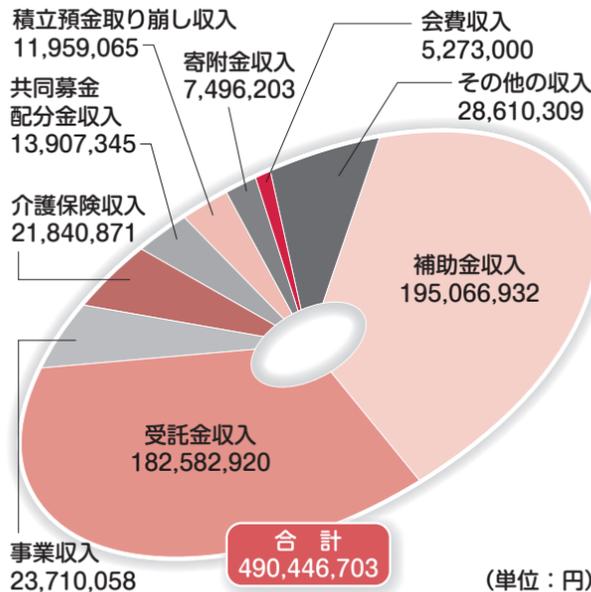
平成22年度 杉並社協・決算及び事業報告

決算報告

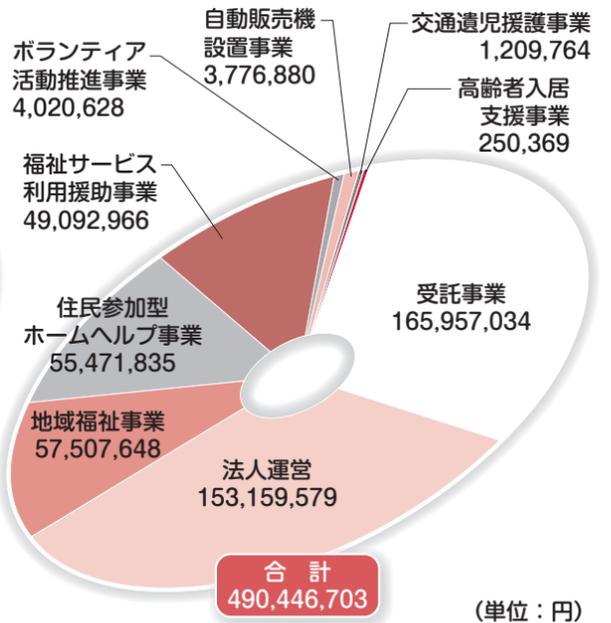
杉並区社会福祉協議会の主な収入は、行政からの補助金、委託金が約8割を占めています。

主な支出は、歳末たすけあい募金等を財源とする地域福祉事業、補助金によるボランティア活動推進事業、住民参加型ホームヘルプ事業、福祉サービス利用援助事業、受託金によるファミリーサポートセンター事業、ケア24、認定調査事業、またそれらの事業を支える人件費、事務費です。皆様からの会費、寄附金は、補助・受託事業の対象になっていないホームページの運営や広報紙の発行などに充てさせていただきます。

平成22年度 決算報告 (収入の部)



平成22年度 決算報告 (支出の部)



主な事業報告

数値が変化した主な事業をいくつか報告します。詳細は報告書(社協にあります)または社協ホームページをご覧ください。

◆広報事業

広報紙「すぎなみ社協」の発行(年6回)
平成22年度から年6回、奇数月の10日発行としました。発行日を固定することにより、計画的に記事を掲載し情報提供することができました。

◆社会福祉普及事業

すぎなみ地域福祉フォーラム2010を開催しました。(新規)
「いまこそ地域のつながりを あなたの声がかえり」をテーマに基調講演と4つの分科会を開催し、300人を超える参加がありました。

◆地域福祉活動推進事業

- ①小地域福祉活動(きずなサロン)
新たに2カ所立ち上がり、区内に12カ所となりました。
- ②地域福祉活動助成(42件)
チャレンジ応援助成:11件、定例活動活性助成:31件を助成しました。

◆ボランティア活動推進事業

新規事業「はじめてのボランティア説明会」を4回開催し、毎回30人の参加者がありました。

◆車いす貸出事業

新たに町会自治会やケア24、民生委員から申し出があり、新規貸出拠点が6カ所増え、合計218カ所、282台となりました。

◆地域福祉権利擁護事業

相談件数は6,693件で昨年度比1,218件増、契約件数152件で昨年度比21件増となり、引き続き、都内最多の実績数でした。

◆あんしん未来支援事業

相談件数は317件で前年度比61件増。事業説明会・講演会を区内各地で開催し、契約者は11名となりました。

◆生活福祉資金貸付事業

平成22年度の相談件数は5,316件(平成21年度2,922件)で、前年の1.8倍となりました。貸付金の中では総合支援資金が2,806件と半数を占めました。

◆ファミリーサポートセンター事業

協力会員を増やすための取り組みをした結果、100人を超える新規協力会員が増えました。

◆介護認定調査事業

認定調査にあたる事務所を3カ所に拠点として設置しました。杉並区の認定調査総数24,851件の37%、9,233件の調査を行いました。

◆地域包括支援センター(ケア24)

3カ所で相談件数は15,373件で前年度比2,996件増え、各町会自治会をはじめ一般住民に地域における身近な相談機関として定着してきました。

◆会員の拡大

「会員感謝のつどい」を開催し、昼の部と夜の部を合わせて648人の参加がありました。

身近にいます

民生委員・児童委員 主任児童委員

杉並区内には、13地区の民生委員児童委員協議会があり、403名の民生委員・児童委員と28名の主任児童委員がいます。このコーナーでは、民生委員・児童委員と主任児童委員が、どのような活動をしているか取材して紹介します。

地域に密着した活動をしています!

★この度の東日本大震災によって被害を受けられた皆様には、心からお見舞い申し上げます。

今回の震災で、民生委員が避難所の被災者とのようなかわりをしたのか、被災地支援に行った杉並区社会福祉協議会の職員に話を聞きました。

ボランティアの方が避難所に行き、被災者の方に今何をしてほしいかを聞きましたが、東北の方は我慢強く、また、見ず知らずのボランティアの方に遠慮もあってか、なかなかお話しなさらなかったそうです。そこで、災害ボランティアセンターは、日ごろから地域に根付いた活動をしている民生委員に「ボランティアさんと一緒に避難所に行ってくれないか」と、要請をしました。その要請を受け訪問した民生委員は、避難所の方に民生委員であること、ボランティアセンターからの要請で来たことなどをお話しすると、安心した様子でぼつりぼつりとお話ししてくれるようになったそうです。

私たちは日ごろから地域の方と顔見知りになり関係を築くことを心がけていますが、今回の震災で現地の状況などを聞き、その大切さをあらためて感じました。

★杉並区では、「たすけあいネットワーク(地域の手)」の登録をすすめています。これは、災害時に高齢者や障害者など自力で避難が困難な方

を地域の方々による支えあいで助け合う仕組みです。

登録した方には民生委員が訪問し、災害が起きた時、その方にはどんな支援が必要なのかを記した「個別避難支援プラン」を作成します。この個別避難支援プランは、心身の状態が変わることをふまえ、3カ月ごとに見直し検討しています。

避難訓練の時には、地域の関係機関、例えば町会や自治会、地域の老人会、父母会などといざという時に連携できるように相談や情報交換を重ねています。

また、定期的に声かけ、見守りを行う「地域の目」として、民生委員、ケア24、あんしん協力員(地域のボランティア)と共に支えあいを深めています。

★一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、家族と同居しているが昼間は一人きりの方、お身体の不自由な方など、少しでも不安のある方はお近くの民生委員にご相談ください。災害時だけでなく、よりよい方法で安心して日常生活を送れるよう、一緒に考えていきます。私たちは地域に密着したきめ細かな支援活動を目指し、これからも取り組んでいきます。

〈担当:民生委員児童委員協議会 井谷(下高永福地区)、松岡(天沼地区)〉

【民生委員・児童委員、主任児童委員に関するお問合せは】

杉並区保健福祉部管理課地域福祉係 ☎03-3312-2111(代表)

杉並区社会福祉協議会 ☎03-5347-1010

ささえあう地域福祉の輪



「子育て・きずなサロン
ちいきちいきカフェ」

杉並区協が推進する小地域福祉活動のひとつに「きずなサロン」があります。これは、ご近所で気軽に立ち寄って、お茶を飲んだりおしゃべりをしたりする、地域の方々の交流の場で区内に12カ所あります。今回は、「子育て・きずなサロン ちいきちいきカフェ」におじゃましました。取材に伺った5月21日はオープンの日。手作りのかわいい看板が迎えてくれました。

子育て中のママがほっと一息つける場所



ちいきちいきカフェのチラシにはこう書いてあります。「子育ては、夢見ていたように楽しいことばかりではなかった・・・!? そんな思いが頭をかすめたら、一人じゃないから、ここにおいでよっ! 子育て仲間とおしゃべりは、どんな育児書より参考になりますよ」



よー 代表の金谷直絵さんは、5歳のふたごのお母さんです。東京に引っ越してきてまもなく、ふたごを妊娠出産しました。知り合いもおらず右も左もわからない東京での不安な日々。初めての子どもがふたごで戸惑いもありました。そこで、「同じ思いをしている人がきつといる、同じ立場のお母さん同士が気軽に集える子育てサロンを作りたい」と思ったのが、立ち上げのきっかけだそうです。はじめは、ふたごとその保護者限定のサロンを考えていたそうですが、たくさんの方に来てもらいたいとの思いから、偶数月は子育て中の方はどなたでも、奇数月はふたご、みつごちゃんとその保護者の集まりにしました。

みんなが笑顔になれる場所に
ちいきちいきカフェは一戸建ての住宅で開かれます。日当たりがよく、笑い声がほれてくるこの場所は、友達の家遊びに来たかのような優しい雰囲気です。
金谷さんは「カフェに来た人みんなが、元

うえるくん <30> 備えあれば……の巻



うえるくんは地域福祉活動の種。彼の名前には、その種を「植える」、福祉を意味する「ウエルフェア」、皆さんと一緒にという気持ちあらわす「ウエルカム」の3つの想いがこめられています。

ありがとうございました

●●●●● 寄附者名簿(敬称略) ●●●●●

平成23年2月1日～平成23年5月31日まで
(お名前は承諾を得て掲載しています。)

〈団体〉

ルミネ荻窪店 恵比寿様	51,047円
(株) FFS味噌-高円寺店	10,000円
(株) FFS味噌-荻窪店	10,000円
株式会社 大起エンゼルヘルプ 代表取締役 小林由穂	30,000円
杉並区新聞販売同業組合	50,000円
杉並カレッジライブ園部知昭	16,096円
東京土建一般労働組合杉並支部	233,400円
ASA西浜田山 高山道雄	16,000円
社団法人 倫理研究所 家庭倫理の会杉並区 代表 正木 清美	5,000円
クリーンライフ ECO・プライフルクリーン	10,350円
天沼中学校卒業生父母の会	10,000円
東京都立荻窪高校定時制生徒会	5,183円
武蔵野ローンテニスクラブ	42,090円

〈個人〉

松倉 公子	10,000円
大場 正規	20,000円
大木 良雄	100,000円

〈匿名〉

7件	3,281,199円
----	------------



福島県の沿岸部で被災者となった伯母に、震災後もなく出したハガキが無事に届いたそうです。配達してくださった郵便屋さん自身も被災者でしょうか。それでも自分の任務を果たしてくださった姿に自分自身を重ね合わせ、身の引き締まる思いがしました。(nao)

交通遺児に援助金を支給します

社協では、交通事故等によって父母などを失った児童に、援助金を支給します。杉並区内の幼稚園、保育園、小・中学校及び高等学校等には、お知らせを配布します。
詳細は左記までお問い合わせください。
【問合せ先】 杉並区社会福祉協議会
☎03(5347)1010

高齢者・障害者のための「巡回無料法律相談会」

日本司法支援センター(法テラス)と共催で民事法律扶助のしくみを利用した弁護士による無料相談会を実施します。

日時 9月3日(土) 午後1時から5時まで(1人45分)
会場 あんさんぶる荻窪4階(杉並区荻窪5-15-13)

相談は予約制です。詳しくはホームページで8月1日以後、ご確認ください。杉並区報「広報すぎなみ」8月1日号にも掲載予定です。

問合せ あんしんサポート係 ☎03-5347-1020

気になって「またがんばろう!」という気持ちになってほしい。ここに来ることが毎回来しみにするような、居心地のいい場所にした。そしていつか、ここに遊びに来ていた子が、カフェのお手伝いをしてくれたり、自分もいつかこんなことをやってみたいな、と思ってくれたら最高にうれしいです!とお話してくれました。

子育てを共感し合える仲間ができ、子どもにとっても新しいお友達ができる出会いの場。「カフェ」の名のとおり、ハーブティールやコーヒーなどこだわりのお茶も用意しています。

ちよつと息抜きに、ぜひちいきちいきカフェに足を運んでみてください。(取材:高橋)

個人情報紛失に関するお詫び
平成23年5月29日南相馬市支援チャリティバザーの会場において、バザーにご協力いただきましたボランティアの皆さまの皆さまの名簿を紛失したことが判明いたしました。
皆さまの個人情報紛失したことについて、深くお詫び申し上げます。
紛失した個人情報内容は、本会杉並ボランティア・地域福祉推進センターで受け付けしたボランティア149名の名前・住所・電話番号です。本会では、今回の事態を重く受け止め、今後、二度とこのようなことのないよう、個人情報を含む情報管理の重要性を再度深く認識し、情報管理の一層の徹底、及び再発防止に努めてまいります。
社会福祉法人杉並区社会福祉協議会
会長 小林義明

私たちは杉並の地域福祉活動を応援しています。

DUSKIN 50歳~60歳代のスタッフが多数在籍
喜びの笑顔をお見せします

シニアケアスタッフ募集

お食事づくり **散歩の付き添い**
簡単なお掃除 **お買物** **お見守り**

資格 ● 資格不要、年齢65歳まで
時給 ● 850円~ 昇給制度あり
時間 ● ご都合の良い曜日・時間に勤務可能
待遇 ● 交通費全額支給、ボーナス制度、未経験の方への教育プログラム有り
勤務地 ● 杉並区とその周辺 お客様宅へ直行・直帰
初回サービス時にはオフィススタッフが必ず同行
応募 ● まずはお気軽にお電話ください
受付時間 ● 9:30~17:00(土日除く) 担当 越川
ダスキンのシニアケア ホームインステッド荻窪ステーション
☎0120-294-360
〒167-0051 東京都杉並区荻窪3-47-24 FAX.03-3398-7717

都市生活を営む方のために生まれた新しい保育園です

チャイルド社 puppyna

荻窪園 久我山園
志木駅前園 新座畑中園

園児募集

随時、職員も募集しております

見学および問い合わせは下記まで
杉並区天沼3-6-27(荻窪駅徒歩3分)
電話:03-3391-0220 メール:puppyna@child.co.jp

はたらく空間で
こちよいい時間を
過ごすために。

オフィス・ウェア
ワーク・ウェア
イベントウェア等用途別に
各種カタログを取り揃えております。
お気軽にお申し付けください。

繊維部 ユニフォーム課 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
TEL:03-3333-5107(代表) FAX:03-3333-9449
URL <http://www.child.co.jp/uniform/>
E-Mail uniform@child.co.jp